

チェルノブイリ

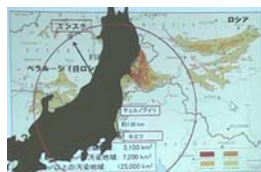
福島第一原子力発電所

東京

約300km

1.400 Bq/m²以上の汚染地域: 3,100 km²
 0.500 ~ 1.400 Bq/m²の汚染地域: 2,200 km²
 0.500 Bq/m²以下の汚染地域: 125,000 km²

国連原子力影響評価委員会 (UNSCEAR)



3月15日9時10分・日立市大沼

日立市大沼

4マイクローセーブルト/時

0.04マイクローセーブルト/時

10:15 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 19:00 20:00 21:00 22:00

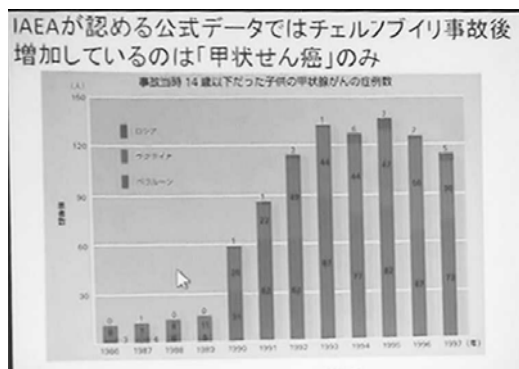
ppb (左軸) ppm (右軸)

○被害を過小評価して広報するIAEA

IAEA(国際原子力機関)という組織は、一見国際的に権威ある機関のように国民には錯覚されていますが、この機関は世界の原子力産業の利益を代表する公告、広報マンです。

チェルノブイリ原発事故評価でさえ、IAEAは「31人しか死んでいない」とした。とんでもない。この目で見たたくさんの子供たちの入院患者、現地で死んでいった子供たちの数は入っていない。

甲状腺がんだけは、もう言い逃れできないほど増えて異常な数字となり、認めざるをえませんでした。



それでもなお「その他のがんや白血病の増加は原発事故による被曝が原因だ」というエビデンスがありません」「だからチェルノブイリでは甲状腺がんしかありません」と。

被曝との因果関係の立証・・・ホットパーティクル

「エビデンス(根拠)」という言葉には注意が必要です。IAEAなどは「増加したのは甲状腺ガンだけ。それ以外のガンや白血病は統計上有意なデータがなく、エビデンスがない」などと言います。

正確には「放射能が原因であると断定できる根拠がない」「わからない」と言うべきです。因果関係が「わからない」ことは、「ない」ということではない。

こういう理屈にソ連の人たちは苦しめられてきた。たくさんの人が亡くなっているのに、国も電力会社もIAEAも認めない。

しかし、ミンスク国立大学の教授が内部被ばくと発ガンの因果関係を立証した。ベラルーシ汚染地帯で亡くなった人200遺体を解剖し、肺の内側のポケットパーティクル(※)の撮影に成功した。



※チェルノブイリ事故の際、爆発炎上し飛散した不揮発性の放射性物質の混合体。ウラン、プルトニウム、ルテチウムも含む。一人当たり数百～2万前後が検出された。2万あると確実にガンを引き起こす。

放射能汚染の被害はここまでやらないと実証できない。それが恐ろしいところです。

水俣病の教訓に学ぶ・・・食物連鎖。 被害認定機関に住民を入れるべき

水俣病を思い出すと、今おきていることが理解できます。今、日本人がいちばん話しを聞かなければならないのはこの水俣病の被害者の方々の話。

水俣病研究の第一人者の原田正純さんは「水俣病の構造と今福島で起きていることがそっくりだ」と警告され、次のように言っています。

- ①原発事故は産官学癒着の「人災」
- ②差別あるところに被害
- ③放射線被害は複雑
- ④被害認定に住民代表を。救済ではなく賠償

【3】福島県民の危機

浜通りのいわき市の市民は国道6号ですぐに車で南に避難した。福島、郡山の方が放射能が高いことは、市民のグループの調査からはじまった。避難した7万人の多くは「浜通り」の住民。福島市・郡山市の「中通り」の人たちは避難できていない。

「福島 18歳以下生涯検査 36万人の甲状腺」(7/26毎日)

「甲状腺被曝 子どもの45%」(6/18朝日)

「福島の子 健康不安切実 被曝実態不透明」

これらが意味することは、子供たちの身体の中に「時限爆弾」が埋め込まれたということ。

食品の汚染

- ①日本で暮らす限り、ある程度身体に入ってしまう事は覚悟しなければならない。
- ②子どもさんがいらっしゃる家庭では少しでも避ける努力を。
- ③食品の物流は複雑です。食品だけでなく肥料、飼料、肥料も関連します。
- ④チェルノブイリ事故後は、野菜・魚・水・牛乳→食肉→加工食品の順に汚染食品が現れました。日本では次に何がおきるのか考えて予防することが必要です。